

# 「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 29)



## オクラ栽培

千葉県農林水産部

### 1 栽培基準

オクラの「ちばエコ農産物」の栽培基準は、化学合成農薬の使用成分回数は3回、化学肥料使用量（窒素分量）は10a当たり11.5kgです。堆肥施用量は、堆肥の種類等により、表1のとおりです。なお、この基準は平成23年4月現在において、作型にかかわらず共通となります。



▲露地栽培

表1 オクラ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準

(平成23年4月現在)

上 限 量		堆肥目安量(kg/10a)			
化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素分量kg/10a)	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり 的堆肥
3	11.5	2,300	900	500	3,000

## 2 栽培基準達成のポイントと考え方

### 1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬防除例を表2に示します。基準を達成するためには、ネコブセンチュウやネキリムシ類の発生しているほ場を避け、播種時の農薬土壌散布が不要な畑を選ぶことがポイントです。

生育中は、病虫害の発生状況をよく観察し、適期防除に努めることが重要です。露地栽培では虫害が問題となることが多く、生育初期にはネキリムシ類、メイガ類、アブラムシ類による被害が目立ち、収穫期になるとフタトガリコヤガ、ハスモンヨトウ、カメムシ類の発生もみられます。

化学合成農薬を削減するためには、ハスモンヨトウ等チョウ目害虫の防除に有効なBT剤※であるデルフィン顆粒水和剤、ゼンターリ顆粒水和剤等を活用する必要があります。

※ BT剤とは、天敵微生物 (*Bacillus thuringiensis*) を利用した生物農薬で、主にチョウ目の害虫 (ハスモンヨトウ等) に有効。「ちばエコ農業」の基準では化学合成農薬に含めない。

表2 オクラ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	主要作業	農薬名	10a当たり使用量 (希釈倍数等)	対象病虫害	備考
5月中旬	播種	ネマトリンエース粒剤	20kg	ネコブセンチュウ	必要に応じて使用
6月中旬	間引き	アトマイヤーフロアブル	4,000倍	アブラムシ類	発生に応じて使用
7月上旬		※デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	ハスモンヨトウ等	発生に応じて使用
7月下旬	収穫開始	アディオオン乳剤	2,000倍	アブラムシ類、 カメムシ類	発生に応じて使用
8月中旬		※デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	ハスモンヨトウ等	発生に応じて使用
9月上旬		※デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	ハスモンヨトウ等	発生に応じて使用
10月上旬	収穫終了				

注) ※印は、「ちばエコ農業」における化学合成農薬に含めない農薬

### A ほ場の選定 ～健全なほ場選びで化学農薬を削減～

#### ●ネコブセンチュウの発生ほ場は避ける

オクラは、ネコブセンチュウの被害を受けやすいので、過去にネコブセンチュウの被害が認められたほ場を避けるようにします。やむを得ず、センチュウの発生歴があるほ場に作付けするときには、播種前にネマトリンエース粒剤を使用する必要がありますが、化学合成農薬の使用回数に1回カウントされることから、生育中に使用できる化学合成農薬が少なくなるので注意が必要です。

## ●作付け予定のほ場に雑草を生やさない

ネキリムシ類は雑草を含め、極めて多くの植物を食害するため、植物があるところにはどこにでもいる可能性があります。そのため、作付け予定のほ場は定植1か月前から雑草等を極力生やさないようにします。また、生育初期にネキリムシ類の被害を受けた場合には、被害株周囲の土壌を浅く中耕し、捕殺に努めます。

## B 生育期～収穫期 ～病害虫の発生を観察して、過剰な農薬散布を回避する～

### ●メイガ類は補殺で防除する

本葉2～3枚のころから収穫期にかけて、アワノメイガが発生し、茎、葉柄及び果実の内部を食害します。また、ワタノメイガ（ハマキムシ）が発生すると葉を筒状に巻き、その内部で葉を食害します。ただし、これらの被害が大きく拡大することはないため、発見次第、捕殺すれば十分です。



▲ 葉柄内部を食害するアワノメイガ

### ●除草は害虫の捕殺を兼ねて行う

生育中期以降、うね間に雑草が発生した時には、中耕除草を行います。除草時にアワノメイガ、カメムシ等の害虫を捕殺することで、被害を抑えることができます。

### ●アブラムシ、カメムシは多発時に防除する

アブラムシ類の防除にはアドマイヤーフロアブル、カメムシ類の防除にはアディオン乳剤やトレボン乳剤の使用が効果的です。農薬を使用する前には、ラベルに記載されている希釈倍数や使用基準を必ず確認します。

### ●ハスモンヨトウの防除はBT剤を活用する

ハスモンヨトウが発生すると果実に被害が及ぶことから、若齢幼虫のうちに生物農薬であるデルフィン顆粒水和剤等のBT剤を散布して防除します。BT剤はオオタバコガ、シロイチモジヨトウ等、他のチョウ目害虫にも効果があります。



▲ ちばエコ基準で栽培されたオクラ

## 2 施肥と土づくり

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。堆肥による土づくりに加えて、有機質肥料の施用により、「ちばエコ農産物」の栽培基準の達成が可能です。

なお、表3の施肥例は、本県のオクラ産地における慣行の施肥分量に準じていますが、各ほ場の施肥量は作付前の土壌診断に基づいて決めます。

また、登録名称内に「有機」などの文字が記載された肥料であっても、化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせ、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

表3 オクラ栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふんもみがら堆肥				2,300			
基肥	有機アグレット666特号	6(0)	6	6	167	10.0(0.0)	10.0	10.0
	苦土重焼燐		35		20		7.0	
	苦土石灰				100			
追肥	燐硝安加里 S604	16(16)	10	14	60	9.6(9.6)	6.0	8.4
総施用量						19.6(9.6)	23.0	18.4

注) ( ) 内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素分量

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬・肥料使用例は、平成21年度現地実証試験時点のものです。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。  
なお、栽培基準は平成23年4月改訂後のものを記載しています。

- 著 作 千葉県農林水産部担い手支援課  
千葉県農林総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
- 発行年月日 平成23年11月

■内容についての問い合わせ先  
千葉県農林総合研究センターTEL. 0470(22)2962  
※令和元年6月変更



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

CHIBAちば